

「京都の商店街の未来を語らう会」

- 1 日 時：平成 27 年 6 月 15 日（月） 19 時～23 時
- 2 場 所：KRP 町家スタジオ（京都市上京区）
- 3 出席者：商店街活性化等に関わる民間若手人材等 10 名、京都府
- 4 目 的：
商店街 HACK 事業の展開に向けた第一弾として、京都市内の商店街を中心に地域で面白いことをしている人や若手を集めて、活動や事例の共有と情報交換を実施する。
- 5 タイムテーブル：
 - ・ 19 時～ 今回の会の趣旨説明
 - ・ 19 時 15 分～ 自己紹介と取り組み紹介（5 分／人・団体）
 - ・ 20 時～ 京都府の商店街の現状（京都府商業・経営支援課から説明）
 - ・ 20 時 15 分～ ディスカッション「京都の商店街の未来」
例）商店街の良さ、商店街の課題と可能性、自分たちができること
- 6 主な意見
 - 何のために商店街があるのかを改めて考えてみる必要がある。現在、商店街の心地よさを実感できている人は少ないのではないかな。
 - 商店街自体も、本当に地域のことを考えているのか、再度見直す視点が重要。
 - 重要なのはアイデアを商店街で実践できる人材。様々な団体が様々な取組をしているが、ノウハウの共有がない。商店街や団体の活動を繋ぐためには情報共有が必要であり、そのためには情報発信の強化が重要。まずは、商店街ポータルサイトをつくってはどうか。
 - 商店街のストーリーづくりとその発信が有効。商店街には空き店舗 1 つをとっても面白いストーリーがいっぱい眠っている。
 - 「アーティスト イン 商店街」のように、商店街と若者やアーティストを繋ぐ取組ができないか。
 - 商店街内へのシェアハウスやゲストハウスづくりも活性化につながる取組ではないか。
 - 「堀川セレクト」（堀川商店街の各個店の商品をアーティストが目利きとなり集めて展示、実際の購入は店舗でしてもらう）のような取組は、どこの商店街でも可能ではないか。また、そうした取組が一過性でなく、ビジネスとして継続的にできる仕組みが必要。
 - 商店街版「ベルマーク」のようなことができないか。商店街で買い物をすることにより、地元の学校がよくなるなど、地域に利益をもたらすということであれば地域の人が商店街で買い物をするインセンティブとなる。
 - 1990 年代に京都の「町家」を魅力ある空間として認識していたのはわずか 1 割程度だが、今ではすっかり認識が変わっている。京都の商店街はどこもおもしろい何かがある。今ある商店街の魅力を引き出すことが重要。
 - 商店街には「なんとかかなりそうなところ」と、「どう支援してもなんともならない

であろうところ」とがある。どういう支援のやり方があるのか、分類が必要。例えば、①「商店街として機能できる場所」、②「商店街を地域のコア・スペースとして活用していく場所」など。

- 商店街では、イベントの時はみんなが頑張っって一定の集客もあるのに、翌日はガラガラというところが多い。なぜそこに活気が生まれないのか、考える必要がある。
- 商店街の空き店舗に人が住んでいる限り、店舗の活用は困難。店舗の活用を次代に回していく仕組みが必要。
- 行政職員がしもた屋を使わせてもらうために依頼に行くと、結局、持ち主は、行政と借家人の両方に気をつかわないといけないので警戒されてしまう。外部から商店街に入り込んでいける人材・組織を繋いでいくことが必要。
- 京都府内の廃業 2 千件超のうち、4 分の 1 は黒字廃業。後継者がいない黒字廃業の商店街の物件とノウハウとを継承して回していく仕組みづくりが必要。
- 事業継承を 1 人ではなく、グループで請け負うような仕組みができないか。

以上